



さえずり

会長 根津 江美子
(十日町市立上野小学校 校長)

二つのありがとう

副会長 嶋見 靖之

令和の時代が始まって5か月が経ちます。新たな時代の幕開けであった約5か月の間に、県リコ研には二つの別れがありました。

一つは、前会長小池純夫先生のご逝去です。平成31年4月30日に永眠されました。県リコ研の発展、そしてリコーダーの普及にご尽力されました。学校教育では全日本リコーダーコンテストに出場し名演を全国に披露しました。指導者賞は14回を数えます。また、地元六日町の子どもたちや市民のリコーダー活動を指導・支援されました。ファミリーアンサンブルの取組は私達の憧れでした。演奏者として現役を貫き、研鑽に励む努力家でありました。そして県リコ研では、いつも温和で、情熱をもってリコーダーの魅力に誘ってくださいました。時にはギターの伴奏を務め、リコーダーの楽しさを一層引き出してくださいました。



県リコ研の充実発展は小池先生のご努力とお人柄があつてできたことです。小池先生ありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

もう一つは、46回を数えた夏季リコーダー研修会に幕を下ろしたことです。

私が初めて参加したのは昭和60年(1985)。日本を代表する講師の先生方は、楽しく、根気強く、リコーダーの基礎・基本をはじめ、楽しさや奥深さを教えてくださいました。また、参加者全員で行う大合奏実習は圧巻でした。8種類のリコーダーを100名で奏でる合奏の響きに身震いがしました。そして講師演奏。リコーダーの音色や響き、生まれてくる音楽に魅了されました。講師や参加者の人間性に昼夜問わず触れることも楽しみでした。閉会式では、3日間の感動を「来年もまた会いましょう」と合唱で確かめ合い、充実した気持ちをもって帰途につきました。この感動を味わいに毎年参加したといっても過言ではありません。

このような経験をした参加者が、リコーダーをもっと好きになったり、学校や社会で子どもたちや市民の方にリコーダーとの出会いを作ったりしました。この研修会がなければ、リコーダーの普及発展はなかったことでしょう。今の自分があるのも、です。夏季リコーダー研修会ありがとうございました。

来年度から、夏季リコーダー研修会の役割は例会が担います。二つのありがとうを胸に、リコーダーの楽しさをたくさんの方と分かち合えるよう例会の充実に努めて参ります。



嶋見副会長の挨拶にもあります、夏季リコーダー研修会が今年度をもって最後となりました。今号は、夏季研修会の特集を組みました。初めての受講者、会員受講者、県外から毎年参加してくださる方、講師の先生、世話役の会員、それぞれの皆様の声を綴って足跡を残したいと思えます。講師の先生、お二人に原稿をお願いいたしましたが、今回は、北村先生のみになります。金子先生は、ご多忙でしたので、3号もしくは、次年度号にお願いすることになりました。そして、もう一つは、久しぶりになります、太田先生の講座です。

夏季研修会特集

～ 最後の夏季研修会にみなさんから寄せていただきました ～

夏季研修会に参加して

十日町市立貝野小学校 佐藤 康子

貝野小学校に赴任し、初めてリコーダー部を担当することになり、正直焦りました。どうしようかと悩んでいる時に、会長の根津先生とある研修会でご一緒する機会があり、そこでこの研修会を紹介していただきました。何とも、ありがたかったです。



といっても、やはりリコーダー研修会に参加すること自体初めてでしたから、とても緊張しました。学校の子どもたちは、譜読みがもう少しで終わりそうな状態だったので、どうやって曲を仕上げていくのか、この研修会で少しでも方向性を見いだせれば、という思いでいっぱいでした。当日はソプラノリコーダーを選びましたが、これが大きな間違いでした。楽譜を見て、大ショック。かなりテクニカルであることは、部活でやっている曲を見て予想できるはずなのに…。世間を知らないというか、自分を知らないって怖いな、と猛烈に反省。でも、同じパートの先生が分からないところを優しく教えてください、とてもうれしかったです。同じパートでも、曲の全部を一緒に吹く訳ではなく、音量や表現によって本数を調節するのだと分かり、勉強になりました。そして、ミスばかりでうまくは吹けませんでした、いろいろなパートが集まり一緒に演奏するリコーダー合奏は、とても心地よい楽しいものだなあと感じました。まずは、自分がその素晴らしさを体感できた研修会だったと感じました。

これから、県大会に向けて子どもたちと一緒に曲をつくりあげていく段階に入っていきます。今回の研修会で学んだ「各パートの音量のバランス」を、指導の中で意識して聴き、調整していきたいです。しかし、そう簡単にできると思っていないので、諸先生方からご助言やご指導を

いただきたいと思います。そして、研修会にもまた参加させていただきたいと思います。これからも、よろしくお願いいたします。

夏季研修会に参加して

十日町市立東小学校 富井明美

小学生の頃はリコーダーが好きで、夏休みの自由な時間は、自宅の暗くて涼しい玄関脇のソファで、村上音頭などを演奏していた。指がすらすらと動き、思うように気持ちの良い音が出ると爽快で、祖母に褒められたりすると、ますますその気になって演奏していた。

中学生の頃は、選択音楽で、友達とアルトリコーダーと一緒に吹くことに面白さを感じた。ひとりではできない音楽の面白さがあった。

今年度現勤務校に赴任し、リコーダー担当となった。昨年度は3月の全国大会で銀賞を受賞したとのこと、伝統あるとてもすばらしい学校に、ただ好きなだけで本格的なことは何も知らない私がお世話になり、ピンチはチャンスだと思うことにして、なんとか頑張っていきたい。

8月5日の夏季リコーダー研修会では、息・音色・リズムに集中し、夢中になっているうちにあっという間に時間が過ぎていった。噂の、あこがれの金子先生ご本人とお会いでき、ドキドキした。今まで知らなかったこんな世界があるのだ、こんな方たちがいらっしゃるのだと勉強になった。リコーダー好きのこの気持ちを持ち続け、子どもたちと一緒に音楽を楽しんでいきたい。



第46回 夏季リコーダー研修会に参加して

佐渡市立両津中学校 岩崎かおり

大ホールに入った瞬間から研修会の始まりがとても楽しみでした。普段見ることができない様々な種類のリコーダー。参加者の皆さんの温かい笑顔。初めて参加するため、不安がたくさんあった私ですが、それは会場に入るとすぐに解消されました。

合奏コースでは、美しいリコーダーの音色が会場いっぱいに響き渡り、いろいろな曲を使ってアレンジの方法を学びました。講師の金子健治先生は、わかりやすく、時にはユーモアを交えながら指導してくださったのであつという間の時間でした。

2日目の午後はアンサンブルコースの方々と一緒にリコーダーオーケストラを楽しみました。最後に演奏した「見上げてごらん夜の星を」では胸がいっぱいになり、この研修会が今年で終わ



ることが残念でなりませんでした。

私は1日だけの参加でしたが、とても充実していて、学ぶことが多くありました。このような夏季研修会の企画・運営をしていただいた皆様に感謝致します。ありがとうございました。

音の世界に浸る貴重な時間（小池先生の思い出と）

新潟市立岡方第二小学校 高橋 祥子

昨年に続いて2回目の参加です。北村先生のアンサンブルコースに参加しました。印象深かったのはバッハのファンタジアです。もともとはチェンバロ曲だと思いますが、リコーダーで6声で演奏することで、漠然と聞いている時には気付かない旋律があぶりだされ、いかに緻密な構成で成り立っているかを再認識しました。一日目はやっとの思いで吹いていましたが、二日目になるといくらか慣れて、それぞれの声部の掛け合いや音程も聴くゆとりが出てきました。そしてほんの一瞬ですが、掛け合いがぴたりと合った時がありました。その時の高揚感！幸福感！このような体験は中学・高校で吹奏楽をした時に数回あったきりで、実に何十年ぶりです！多くの参加者の皆さんのように、日頃からアンサンブルに親しんでいる方々には当たり前のことかも知れませんが、私にとっては心が震える素敵な瞬間でした。北村先生と参加者の皆さんに感謝！！



こんな素晴らしい体験ができる研修会ですが、46回も続いたのに今回で休止となってしまいました。どうしてもっと早くに研修会のことを知らなかったのだろうと悔やまれます。

私は、これまでリコーダーに関して仲間と出会う機会がありませんでした。ひっそりと？一人で愛好していたところ、浦佐小学校に勤務していた時、南魚沼市のリコーダー教室で小池先生にお会いしました。その後、新潟市に戻る時、小池先生が当会に誘って下さいました。小池先生のおかげで皆さんとお会いすることができたのですが、その小池先生はあっという間に旅立たれてしまいました。

今回、最後に金子先生の指揮のもと、皆さんと一緒に小池先生編曲の「見上げてごらん夜の星を」を、先生と縁の深い南魚沼市民会館のホールで演奏できましたこと、深く感謝いたします。ありがとうございました。

このような充実した時間を過ごすことができるのは、「二日間」（昔は二泊三日とお聞きしました）という時間も大切なのではないかと思います。再び皆さんと、音の世界に浸る貴重な時間を

共有できることを願ってやみません。

夏の楽しみ 夏季リコーダー研修会

長岡市立栃尾南小学校 神保 克美

初めて夏の合宿に参加したのは、34年前の神立小学校でした。日航機の墜落があった年です。「初心者でも安心して参加できます」という案内に誘われて、友だちと一緒に中級コースに申し込みました。講師の高橋譲司先生は、仙人のようで、本当にやさしくて、初心者マークの私たちを温かく見守ってくださいました。たくさんの参加者の中で、それはそれは楽しく吹くことができました。「世の中に、こんなに楽しい世界があったなんて」と大感激！全体合奏も、先生方の模範演奏も、各コースの成果の発表も、本当にステキで、すっかり心を奪われてしまいました。

それからは「夏はリコーダー」が恒例行事となりました。家族には、「湯沢で研修があるの」と言って出かけるのですが、研修という意識はほとんどなく、ひたすら楽しみを追求していた気がします。「遠くまで大変だのう」と労ってくれたおばあちゃん、ゴメンナサイ。結婚や出産で7回ほどお休みしましたが、それ以外はほとんど参加させていただきました。リコ研に入会したのも、真夏の合宿でした。

リコ研でみなさんと吹いたり、小出郷文化会館のリコーダーオーケストラで仲間と吹いたり、学校で子どもたちと吹いたり、私の生活はリコーダーのおかげで色鮮やかで豊かです。過酷な教育現場で大きなストレスを抱えながらも元気に過ごしていられるのは、本当にリコーダーのおかげです。これからもこの出会いを大切に、元気で長生きしなくちゃと思っています。みなさんありがとうございます。これからもよろしく。

和気あいあいのアンサンブルコース

枚方市 大國弘

私が初めて参加したのは、2012年8月に魚沼市の小出郷文化会館で開催された研修会からです。この会を知ったのは、兵庫県の笛仲間の先生から「新潟の講習会で北村正彦さんのアンサンブルコースがあるよ」とお聞きしたからです。北村先生には、私がリコーダーを始めた時からお世話



になり、先生が大阪から東京に転勤される時まで個人レッスンも受けていました。また私が所属しているアンサンブル「オクターブ」の名付け親でもあります。それ以降は、直接指導を受ける機会がなかったので、この機会を逃してはと早速申し込みました。

新潟県はリコーダーのレベルが高いと聞いていましたが、参加してみると、現場の先生方の演奏技術は本当に素晴らしいものでした。皆さんについていくのがやっとの私でした。このような先生方に指導を受けている子どもたちは、きっと素敵な演奏をしているのだろうと羨ましく思いました。

アンサンブルコースの受講者は、毎年10名前後でしたが、ほとんどの方が以前から北村先生とはお付き合いがあるようで、講習は常に和気あいあい。毎年、たくさんのお楽譜を持って来られ、それを演奏するのですが、かなり高度な曲もありました。そんな時は、受講者から「これは、無理」との声。また、練習に熱が入りすぎると、「休憩しましょう」と受講生から。こんな感じの講習でした。自由に発言出来るのはこの講習会だけです。

このコースでは、その年の受講生の人数に合わせて、一人1パートの曲を演奏するのが定番でした。今でも印象に残っている曲が、バッハのブランデンブルク協奏曲です。パート譜で演奏するので、落ちたらおしまいという恐怖感を感じながらの演奏でした。1年目は付いていけませんでした。次の年からは何とかついていけるようになりました。一人1パートは本当に辛かったです。

他にもたくさんのお楽譜を紹介していただき、本当に勉強になりました。この研修会が今年が最後というのはとても残念です。何らかの形で継続していただけたらと切望しています。長い間、お世話になり、ありがとうございました。

夏季リコーダー研修会の思い出

児玉 禎明

私が夏季リコーダー研修会へ初めて参加したのは、まだ20代の頃の平成5年で、県リコ研へはその時に入会いたしました。当時は学校の校舎で講習が行われ、雪国生まれで暑がりの私は参りましたが(笑)、プロによる大勢の合奏での本格的な講習、展示即売されている数多くの楽器や楽譜などが大変良く、以降毎年参加させていただきました。



平成12年から数回、県外から宮城県の坂本先生が参加されました。ご指導の小学生は初心者

団体なので、私が楽譜やデモテープを数回編曲、作成し、お礼的に宮城県へ招待演奏でお招きいただいたことがありました。また、私がネットで紹介して愛媛県的女子大生が参加したこともあり、県外からでも参加できる宿舍つきの良さを再認識しました。

平成13年から一般で初の県リコ研役員を務めさせていただき、夏季研修の担当理事になり、準備等を手伝わせていただきました。

私は趣味で作曲・編曲を少々やり、合併前の旧・三川中学校（現在は安田中学校）教員からの夏季研修会の中でのご依頼で、同校の校歌を吹奏楽へ編曲させていただきました。

初参加から夜飲むのが楽しく泊まりで参加しましたが、平成18年に母親が亡くなり、弔意で在住の十日町市からは通えるので、通いにしました。ただ、平成18年は南魚沼市民会館リコーダー教室の受講者お2人と一緒にコンテストへ出ることになり、3人とも夏季研修会へ参加して楽しく過ごしました。

今思い返しますと、一番の収穫はプロの講習ももちろんですが、それと同じ位、上記のように多くの方々と知り合えて交流できたことでした。リコーダーは平成12年から学校で選択楽器になり、そういった流れで夏季リコーダー研修会が終わるのは寂しいですが、県リコ研は不滅で続きますので、これからもリコーダーを楽しんでいきたいと思えます。

栄光の半世紀

アンサンブルコース 講師 北村正彦

受講生の皆様、歴代執行部の皆様、永い間ありがとうございました。先ずは46年間という永きにわたって栄光の時代を創り上げた、新潟県リコーダー教育研究会を讃えたいと思えます。

学校教育に不可欠な、児童生徒への導入期からの指導方法を深く研究すること、自ら演奏を楽しみ体験していくこと。このふたつを一貫した音楽教育理念に基づいて実践して来たのが、このセミナーの大きな特徴でした。

私は平成9年から23年間講師を務めさせて頂きました。最初のころ「リコーダーの初歩指導（主にソプラノ）」を担当して、小学校3年生をどのように指導するか、また子どもが中心となる教材曲とは何か、について様々に研究。近年は「小編成アンサンブル」を担当し8フィートでの合奏と現代のリコーダーオリジナル作品を取り上げました。



私にとってこうしたことは、リコーダー音楽の幅広さと奥深さをあらためて知る機会ともなりました。

そして、リコーダーのほんとうに美しい響きを愛する方々とともに、よい仕事ができたと感謝しております。

夏季リコーダー研修会を振り返って

理事 夏季研修担当 小林 敦子

令和元年度の夏季リコーダー研修会の閉会式で、根津会長がとても名残惜しそうに最後のご挨拶をされた時、知らないうちに涙が出てきました。

私は大学生の時からこの研修会に参加していたので、足かけ30年です。子育て時期はお休みしていましたが、夏休みと言えば、「リコ研夏合宿」。中学校の部活動でお世話になった先生や、音楽の大先輩、そしてプロの先生方からたくさんのことを学ぶとてもよい機会でした。一日中音楽のことだけ考えていられる時間はそうそうありません。それがなくなってしまうのはとても寂しいなと思っています。



夏季リコーダー研修会では、平成21年度から事務局（会計）を担当させていただきました。大金を持ち歩いての研修会参加はとても緊張し、計算が合わなくて研修どころではなかったことも度々でした。ですが、研修会に参加するだけでなく、事務局として関わることで新潟県リコーダー教育研究会を運営されてきた先輩方の足跡や、受講される方への気遣いなどを実感することができました。何よりも役員の皆さんが研修会を開くことやそれに携わる仕事を楽しんでおられることに感銘を受け、私も笑顔でがんばろうと思いました。

またいつか、何も考えずに一日音楽漬けの日々が過ごせたらいいな・・・。

皆様、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

「夏季研修 裏話」というほどでもないですが……

理事長 夏季研修担当 上村 弥

今年度、第46回をもって新潟リコ研の夏季研修会が終了しました。いやあ、楽しかったなあ。ロープウェイでアルプの里に上がってエーデルワイスを吹いてリコーダーオーケストラに遅れたり、ホテルのテニスコートで昼は太鼓を叩き夜は流れ星を見たり…… 遠藤先生の「休憩、邪宗門」の一声でコーヒーを飲みに行ったり……



参加者数の推移のデータが平成11年度からあるので、小池先生、亀貝先生から引き継いで、20年以上、担当させてもらいました。参加者数45名程度で引き継ぎ、平成10年代は40名以上をキープ、20年代になると35名くらい、研修場所は、小池先生の頃の湯沢から湯ノ谷、小出、最後は六日町。会場も学校、ホテル、道の駅、文化会館。研修内容も、今の合奏、アンサンブルの2コースに落ち着くまで、リコ研会員による講座を挟んだこともありました。

講師の北村先生からは、考えるヒントをたくさんいただきました。「初参加の人を増やしたいって、初めての人が合宿から参加するか、泊まりが当たり前の合宿という考え方を何とかしなくちゃ」「初心者コースでしょ、初心者がソプラノからバスまで、リコーダー一式入れたあんなケース持ってくるか、受講生少なくていいからサクラのリコ研会員はいらないから。」等々、いくつも生かせませんでした。ありがたかったです。

楽しい年中行事がなくなってしまいましたが、今後、形を変えて復活してほしいと思っています。そのときは、理事長や担当理事の肩書きなしで、一般参加で参加したいな……純粋にリコーダー漬けの時間を楽しみたいなと思っています。



細かい音をきれいに並べるには

リコーダー奏者 太田光子

新潟県リコーダー教育研究会の皆さま、こんにちは。
リコーダー奏者の太田光子です。

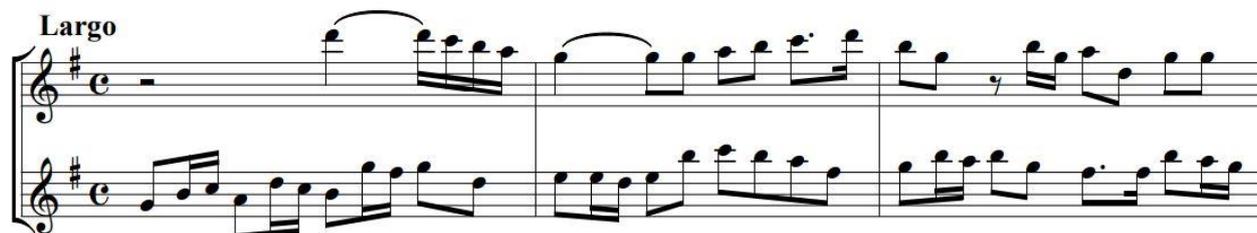
「どうしたら細かくて速いパッセージが吹けるようになりますか？」
「どういう練習をしたら、できるようになりますか？」
これは、私がレッスンをしていて、よく受ける質問のうちの1つです。

リコーダーをある程度吹くことはできても、16分音符等細かい音が並んでいる箇所になると慌ててしまい、乱れて音がきれいに並ばなくなってしまう……。これは、リコーダーを愛する皆さまの前に必ず立ちはだかる壁ですね。

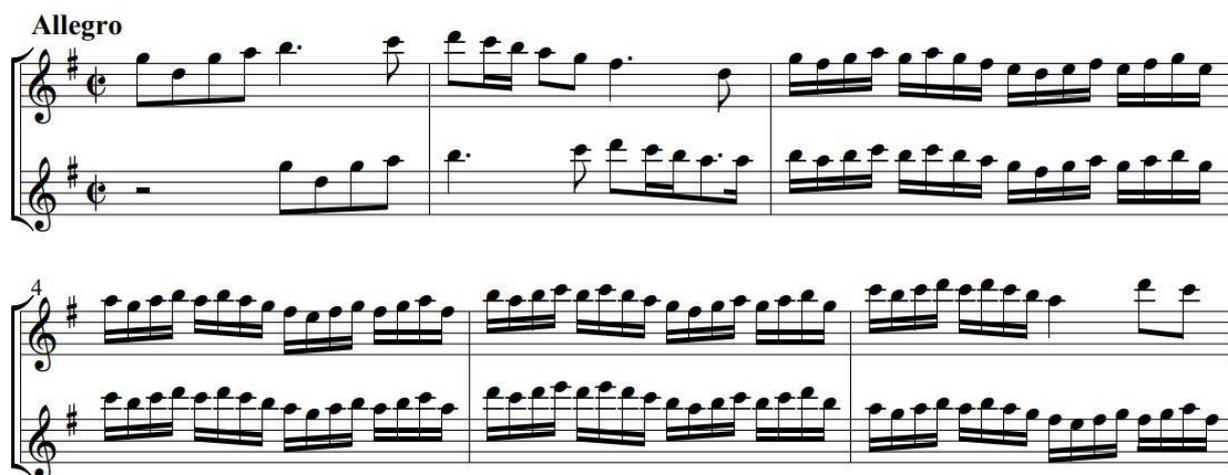
そういう時、うまくいっていないまま何度も一生懸命繰り返して練習している姿をよく見ますが、これは、一番良くない練習方法です。練習時間や練習の回数よりも重要なのは、「何が原因でうまくいっていないのか、まず見極めること」です。



実際に昨日行っていたレッスンを、取り上げてみましょう。
曲目は皆さまおなじみ、ジャン＝バティスト・ルイエ・ド・ガンのデュエットです。コンテスト等では第1番イ短調が良く演奏されていますが、このメロディーで始まる第2番も有名ですね。



第2番第2楽章、冒頭のこちらの16分音符の連続。



当たってくださった役員の皆様、お疲れ様でした。心から感謝申し上げます。

太田先生の久しぶりの講座。細かいフレーズの克服法、少し上の段階になると身に付けたいテクニックですよね。太田先生ありがとうございます

◆ 投稿・問い合わせ等は、こちらにお願いします。(*^。^*)

mitu3tu@gmail.com / 080-3322-1776 です。編集 [榎熊 三津男]

広報 さえずり担当：榎熊 三津男 / ホームページ：児玉禎明



<没編集後記>

県リコの事業、夏季研修・コンテストも終わり、例会も本日の第4回目を残すまでとなりました。全日本コンテストに出場する皆さんは、残された時間を子どもたちとともに、聴き手の感動を呼ぶ演奏ができますよう、願っています。44回の夏季研修、43回のコンテスト、半世紀近くの営みを会員一人一人が世代を引き継いで継続してきました。全日本も変革の時期を迎えています。県リコも同様です。改革・改善しても、今まで大切にしてきた、先輩からいただいた良いものを私たちがより高め、若い世代を育てながら引き継ぐ営みは、会員一人一人が意図して行動していきましょう。